

## 産学官連携強化委員会（第2回）における主な議論

（プレゼンに関連しての議論）

- （産学官のみならず）連携を進めるポイントの一つは、互いのメリットを如何に見いだすかである。
  
- 新しい技術が出てきても社会実装の段階でうまくいかない、国民に拒否される、という実態がある。強いリーダーシップとビジョンの共有、意志決定への住民参加などが鍵ではないか。
  
- 技術の発展が進む一方で、それが人々の幸福につながっていないのではという思いがある。技術の開発をリスクコミュニケーションとともに考える必要がある。

（全体ディスカッション）

- 技術成果をいかに社会実装していくかの議論をしていく必要があるのではないか。参考2-2では社会で実現することと技術とのつながりが見えない。具体的なシナリオを作って議論してみてもどうか。
  
- 非技術的課題も重要ではないか。日本では制度面や省庁の縦割りの問題があり、社会への実装が困難になっているが、そのあたりもここで議論していくべきなのか。これまでの実証実験の取り組みが社会実装につながっていないことも反省すべき。
  
- 今後世界で市場として延びていく領域として、医療と教育は間違いない。省庁の連携も含めて、どのように取り組んでいくのか整理すべきではないか。
  
- 課題毎に、社会実装や産業化までにかかる時間も様々である。時間軸の観点からの仕分けが必要ではないか。
  
- 4つの社会的ニーズのキーワードに対する上位概念が必要ではないか。例えば、社会に貢献するICTと個人を豊かにするICTなど、細かいキーワードに依存しない構造にしておいたほうがよいのではないか。
  
- 社会ニーズに沿った整理だけでは、技術的にとがったものが伸びてこないことが懸念。先端的な技術を無理に社会ニーズの中に整理しなくてもよいのではないか。
  
- 総務省の予算案件の話から社会実装まで、議論が発散しているように思う。本委員会のスコープを区切る必要があるのではないか。
  
- 国際競争力やオープンイノベーションはこれまでの研究会等での議論との重複を避け、具体論を検討する必要がある。